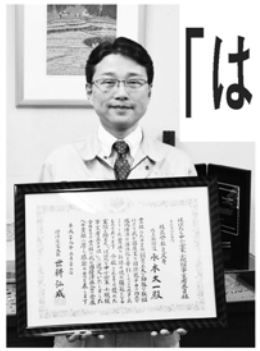
「はばたく中小企業」に選定

生産性向上への取組みで

ミズキ

㈱ミズキ（神奈川県綾瀬市、水木太一社長）は3月、「不良品ゼロへの取組み」や「新本社工場建設による一貫生産化と業務効率の改善」で〝能動的な町工場（中小企業）〟としての活躍が評価され、中小企業庁の「はばたく中小企業・小規模事業者300社2017」の「生産性向上部門」で受賞。23日には経済産業省本庁舎において表彰式が開催され、水木社長が出席した。



表彰状を持つ水木社長

同社はデジタルカメラ・HDD・精密モーター・音響機器・自動車電装部品向けのねじ部品をはじめ、ヘッダー加工・ローリング加工・切削加工を駆使した各種金属加工品を製造・販売。近年は複数の主要ユーザーから、品質優秀賞や購入先実績としての高評価を受けている。

本年の同賞の選考基準は「生産性向上」「需要獲得」「担い手確保」であり、同社は「生産性向上」を中心に、次の点が評価された。

生産性向上＝①付加価値向上…不良品ゼロへの取組み、②業務効率化…新本社工場建設による一貫生産化　需要獲得＝①海外市場・ビジネスへの展開…海外メーカーからの難題オファーを成長の機会として解決へ取組み、②地域資源の活用・地域経済活性化…近隣の協力会社とのネットワークによる品質保証・製造方法の向上、締結部品のソリューションでユーザーへの利便性向上につながるワンストップサービス　担い手確保＝①多彩な人材活用・育成…ねじ製造の経験者採用が難しい為、元農職人・美容師・自動車販売といった多彩なバックグラウンドを持つ未経験者を技術者に育成、②円滑な事業継承…同社は創業77年で水木社長は40代半ばだが、次世代が不安なく事業承継できるように、A・現場が判断する機会を尊重し、状況判断できる後継者を育成、B・締結部品にターゲットを絞り無理な投資を抑制しての財務の安定、C・長期的視点を持ち、従来の従来製造してきたHDD用シャフトやデジカメ向けねじだけでなく、ロボット向け・医療介護向け締結部品への参入を視野に入れている。

その他の評価点＝①海外ユーザーからの要望に応じ0・5ミリ以下の精度を実現、②品質・納期等で高評価となり、ユーザーにとって仕入れ先重要度が高く新規案件や技術的相談を持ち込まれ易くなる〝ナンバー1戦略〟、③難しい案件にも果敢にチャレンジする社風構築、④産業技術総合研究所・日本貿易振興機構（JETRO）神奈川県産業技術センター等との関わりが多く、各団体からの事業展開についてのセミナー講演の依頼に応え、受講した中小企業の競争力強化への支援、また〝能動的な町工場〟としての知名度向上、ものづくり補助金の活用―等により中小企業庁への推薦となった。

新本社工場を建設中

山梨工場と統合し効率化

同社は3月下旬現在、本社工場の近隣に新本社工場を建設中。事業所内のレイアウト再構築及び山梨工場（都留市）との統合により、業務効率の20～30％向上を目指している。

同社は本社工場と山梨工場の2事業所体制であり、本社工場では切削加工・ヘッダー加工、山梨工場ではφ4以下のヘッダー加工をメインとして分業している。ねじ加工においては主に、山梨工場でヘッダー加工・本社工場でローリング加工の流れで加工が行なわれ、リードタイムの発生や、運送の手間・コストが発生していた為、事業所統合により効率化を目的としている。

新本社工場は本社兼工場から北東に約250㍍（徒歩約3分）の土地を購入して、3月下旬現在で、1棟は事務所、温度管理された専用の測定室（検査室）、梱包室、倉庫とする予定で、本社工場と山梨工場を合わせた延床面積に対し約1・4倍、敷地面積では約1・7倍となる。

1月には地鎮祭が執り行われ、その後工事着工、10月末に完成し11月に移転を予定しており、移転後に旧（現）本社工場と山梨工場は引き払う計画となっている。

水木社長は「山梨工場との統合で約10％、さらに来年3月頃には目の前（約100㍍先）を走る東名高速に緩やかにアクセスが出来る為さらに業務効率は20～30％向上するとみている」とコメントした。

基礎工事中